

個人投資家説明会



大阪有機化学工業株式会社

OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

<https://www.ooc.co.jp>

証券番号 4187(東証プライム)



Feb, 2025

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

会社概要

- 会社名 大阪有機化学工業株式会社
- 創立 1941 年 12 月 8 日
- 設立 1946 年 12 月 21 日
- 代表者 代表取締役社長 安藤 昌幸
- 上場市場 東証プライム(証券コード：4187)
- 従業員数 463 名(連結)
- 資本金 36 億 29 万円
- 売上高 326 億円(新収益認識基準)

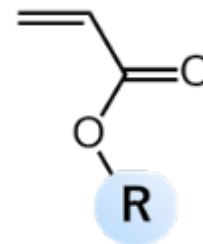
経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルの一リーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

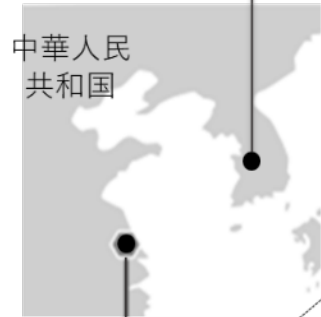
アクリル酸エステル



事業拠点

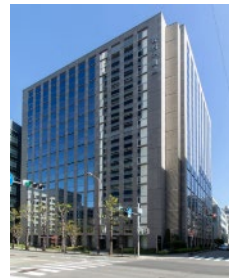


韓国大阪有機化学工業(株)



中華人民
共和国

光碩(上海)化工
貿易有限公司



本社

営業所
ISO-9001



金沢工場

製造所 研究所
100,281m²
ISO-9001
ISO-14000



酒田工場

製造所
122,265m²
ISO-9001
ISO-14000
ISO-45001



東京オフィス

営業所
ISO-9001



大阪事業所

事業所 研究所
26,472m²
ISO-9001



神港有機化学工業(株)

● 当社事業拠点
2025.2.04現在

事業領域

当社は**特殊アクリル酸エステル**をキーマテリアルに様々な**シェアNO.1製品**を開発。
エッセンシャルケミカルとして生活に欠かせない**中間素材メーカー**です。



当社概要・価値創造の歩み

※グラフは売上高の推移

創世期

- ・ 蒸留 精製（高純度化）に強み
- ・ 日本で初めてアクリル酸の工業化に成功



1954年
アクリル酸

1968年
特殊アクリル酸エステル



1975年
光硬化型塗料、
インキ原料

1982年
医薬中間体原料



1995年
LSIレジスト関連

1999年
液晶ディスプレイ用
フォトスペーサー



2014年
アダマンテート事業譲受

2020年
半導体事業 需要の急増

2021年
化粧品アクリル樹脂事業譲受



FY24 売上高
326億円

CAGR 3.2 %/年
※2014~2024年

ファインケミカル導入期

- ・ 製品の川下化、構造の多様化
- ・ 医薬中間体、ヘアケア、インク、粘着剤 等

電子材料発展期

- ・ 超高純度化技術、品質管理力、顧客対応力
- ・ 半導体用材料、ディスプレイ用原料 等

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1941年
創業

1946年
設立

1961年
大阪事業所 稼働

1968年
神港有機化学工業(株)設立

1981年
金沢工場 稼働

1987年
大阪証券取引所
市場二部上場

2000年
酒田工場 竣工

2011年
東京証券取引所市場一部上場

2014年
光碩(上海)化工貿易有限公司設立

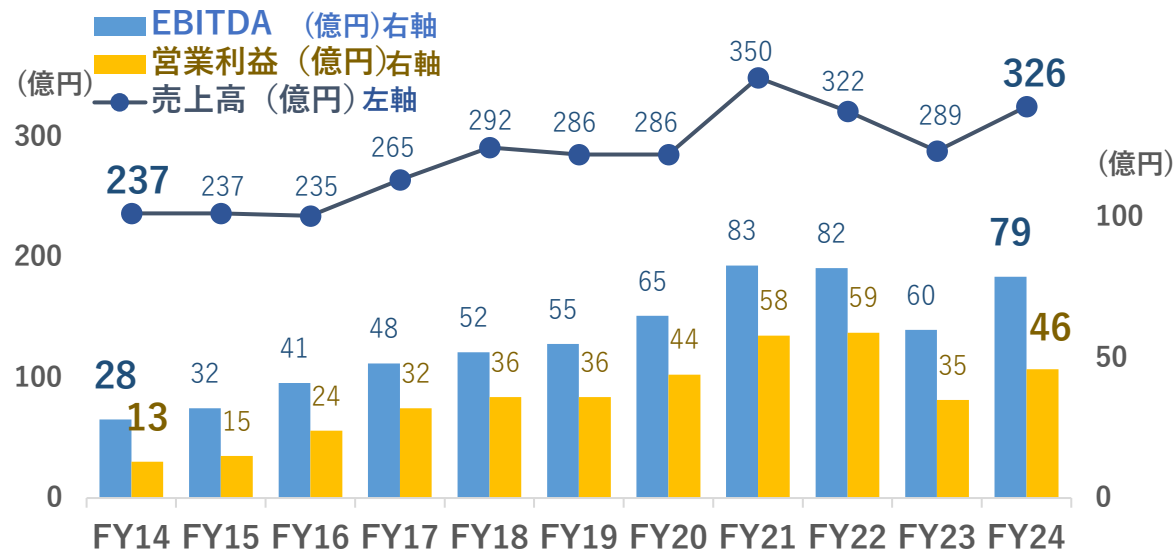
2024年
韓国大阪有機化学工業(株)設立

業績 / 資本効率性

当社は技術開発力に強みを持ち、成長事業への積極的な投資により売上を向上。
また、効率性も重視し、長期的かつ持続的な成長を目指しています。

技術開発による事業成長

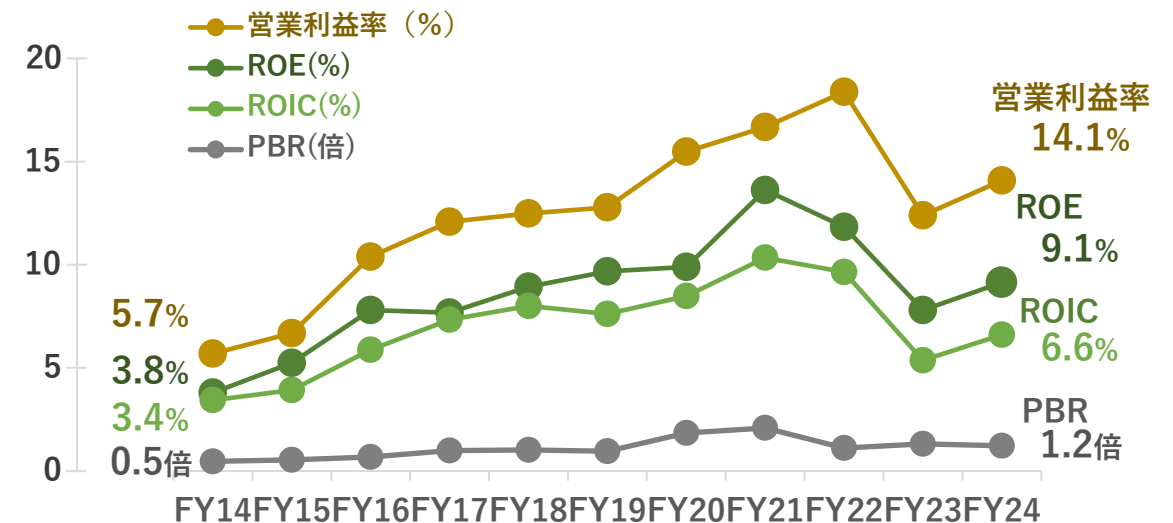
売上高	CAGR	3.2 %/年 ※
営業利益	CAGR	13.0 %/年 ※
EBITDA	CAGR	10.7 %/年 ※



※EBITDA = 営業利益 + 償却費

資本効率の向上

営業利益率の変化	5.7 % ⇒ 14.1 % ※
ROEの変化	3.8 % ⇒ 9.1 % ※
EPS CAGR	17.2 %/年 ※



※いずれもFY14～FY24の期間で計算

2024年11月期 実績 と 2025年11月期 業績予想

2024年度11月期は、化成品セグメントを中心に業績が好調。売上高 326億円。（前年同期比 13.1%増）
2025年度11月期は、売上高は340億円、営業利益 50億円と予想しています。

※純利益の減少は主に、前期に特別利益が多く発生した影響

	FY23	FY24		前年度比 (FY24/FY23)	
	実績	予想	実績	増減額	増減率
売上高	28,907	32,000	32,698	+3,791	+13.1%
営業利益	3,577	4,200	4,608	+1,031	+28.8%
経常利益	3,877	4,400	4,753	+876	+22.6%
純利益 *	3,270	3,700	4,044	+773	+23.7%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	68,150	70,000	75,600	—	—
為替 (¥/\$)	140	145	150	—	—

FY25	前年度比 (FY25/FY24)	
予想	増減額	増減率
34,000	+1,302	+4.0%
5,000	+392	+8.5%
5,200	+447	+9.4%
3,500	△544	△13.5%
75,000	—	—
155	—	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

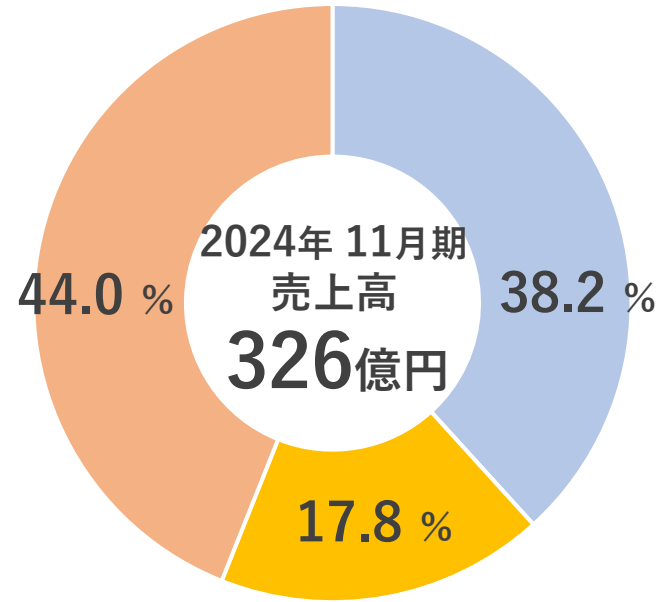
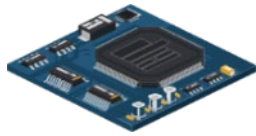
各事業セグメント 売上高比率

電子材料事業

表示材料用レジスト、ポリマー



半導体用原料



機能化学品事業

電子材料用溶剤



曇り止め材料



ヘアケア用ポリマー

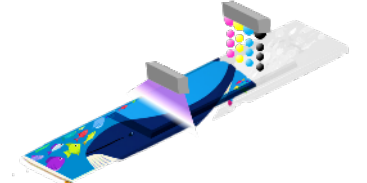


化成品事業

自動車塗料用原料



インクジェット用原料



特殊粘着剤用原料



コンタクトレンズ用原料

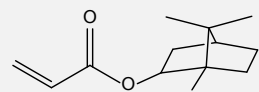


化成品事業

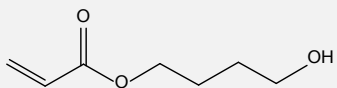
高度な蒸留技術を活かした**高品質なアクリルモノマー**を豊富にラインナップ。

自動車塗料

独自構造や高い純度により、世界シェアNO.1
となる材料を複数保有



IBXA



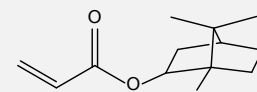
4-HBA

他

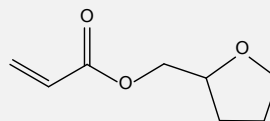
世界
シェア
1位

バイオマスアクリレート

天然由来の資源(バイオマス)を用いた環境にやさしい製品



IBXA
(BRC 76%)

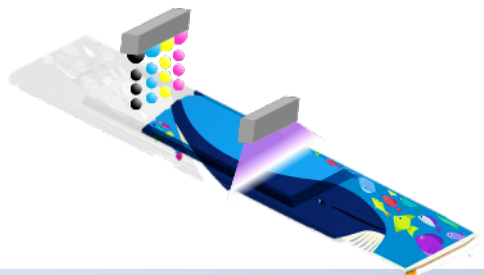


THFA
(BRC 62%)

他

※BRC…Bio Renewable Carbon

UVインクジェット・3Dプリンティング



ディスプレイ用光学系粘着剤



コンタクトレンズ原料



機能化学品事業

高品質を活かし、**化粧品原料・特殊溶剤**など多岐にわたり展開。

化粧品原料

化粧品用防腐剤



高純度化技術を活かし
においの少ない材料を提供。
皮膚への刺激が強いパラベンを
使用せず、肌にやさしい処方が可能。

ヘアケア用ポリマー



化学構造の多様性を活かし
指通り、肌触りが良好な製品を提供。

電子材料用溶剤



超高純度化技術により、
金属不純物をppbレベルまで低減。
半導体用原料などに使用。

防曇材料 (曇り止め材)



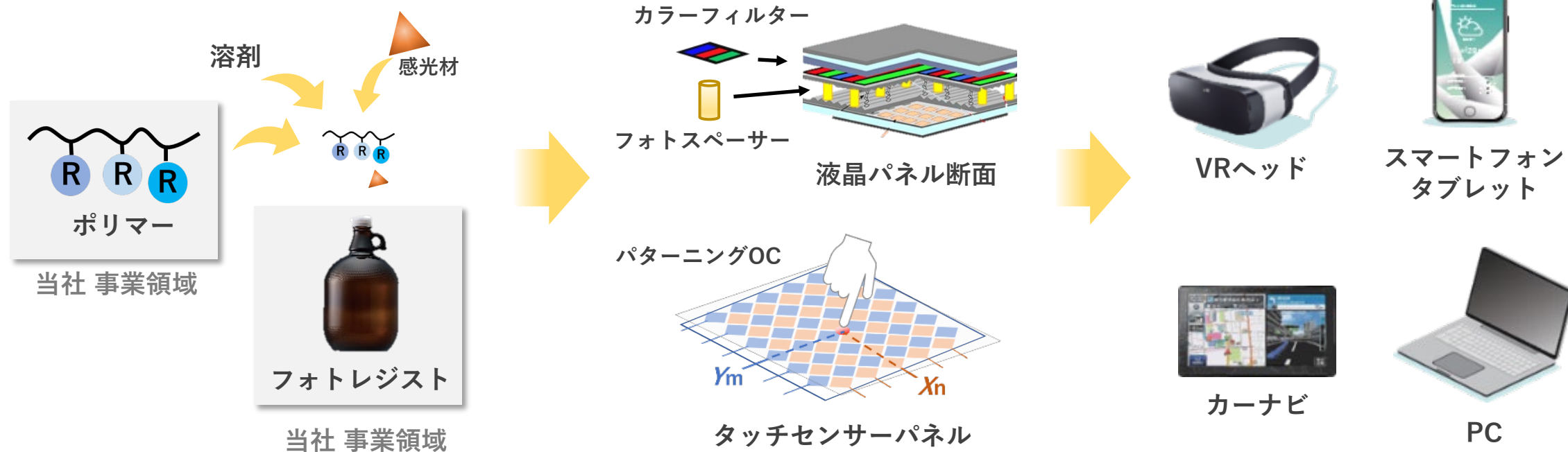
未処理 処理

超親水性ポリマーによるコート剤
独自のブラシ構造により、
高い曇り止め機能に加え、
セルフクリーニング性能も備える。

「万能型、超親水性コーティング剤の開発に関するお知らせ」
をプレスリリース (2025/1/31)

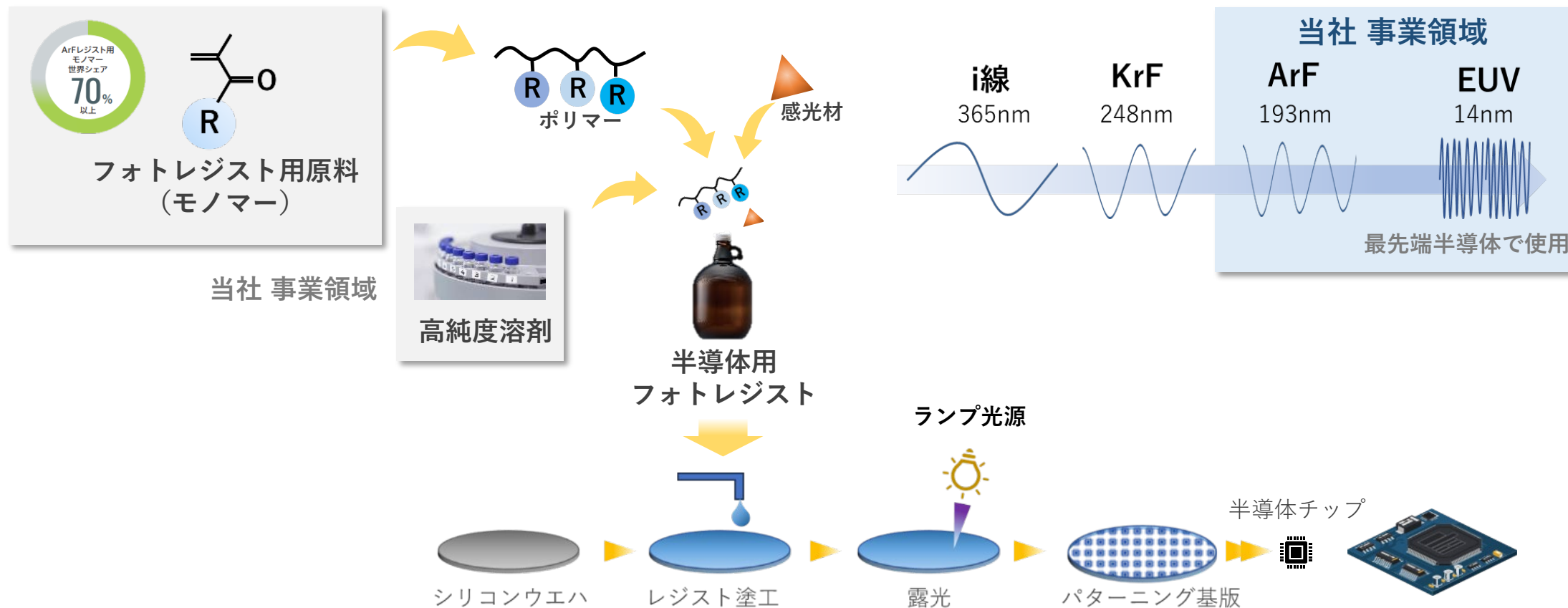
電子材料事業 (表示材料)

当社独自のアクリル樹脂設計技術を生かし、ポリマーやフォトレジストを開発。
液晶パネルやタッチセンサーパネルなどの高機能化に役立つ材料を提供。



電子材料事業 (半導体用フォトレジスト原料)

半導体製造で重要なフォトリソグラフィ工程で使用する**フォトレジスト**において
当社は**ArFレジスト用原料のトップシェア(70%以上)**。また、**最先端EUVレジスト用材料**も提供。



1. 大阪有機化学工業株式会社について
- 2. 中期経営計画 Progress & Development 2030**
3. 株主還元

中期経営計画 ～Progress & Development 2030～

前中期経営計画 Next Stage 10は2022年度で目標達成した事に加え、会計基準の変更(収益認識)もあり1年前倒しで終了。**2024年度から新中期経営計画 P & D 2030をスタート。**



	FY19 (実績)	FY20 (実績)	FY21 (実績)	FY22 (実績)	FY23 (実績)	FY24 (実績)	FY26 (目標)	FY30 (目標)
売上高	286 億円	286 億円	350 億円	322 億円	289 億円	326 億円	400 億円	500 億円
営業利益	36 億円	44 億円	58 億円	59 億円	35 億円	46 億円	56 億円	75 億円
売上高営業利益率	12.8 %	15.5 %	16.7 %	18.4 %	12.4 %	14.1 %	14.0 %以上	15.0 %以上
戦略投資・事業投資	35 億円	47 億円	16 億円	11 億円	86 億円	累積 300 億円以上		
ROE	9.7 %	9.9 %	13.6 %	11.9 %	7.8 %	9.1 %	10.0 %以上	12.0 %以上
ROIC	7.7 %	9.0 %	9.7 %	9.3 %	5.4 %	6.6 %	8.0 %以上	9.0 %以上
配当性向	29.2 %	30.8 %	22.2 %	24.9 %	36.6 %	34.5 %	40 %目安	

中期経営計画 P & D 2030 重点事業領域の施策

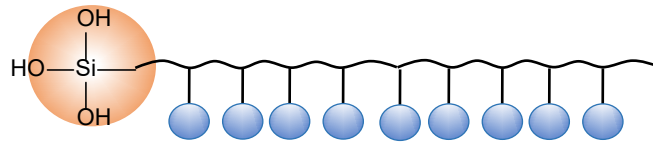
	ターゲット (市場,用途)	目標	投資・施策
化成品	環境	BRC* 100%バイオマスアクリレートの開発/上市	新プロセスによる新製品開発(大学との共同研究)
	ディスプレイ	主力製品 4-HBAの供給体制強化	新規製造プラント建設 プラントの生産能力強化
機能化学品	フィルムコート 電子材料 生体適合材 など	水溶性ポリマーの用途展開	ポリマーブラシ材 LAMBICの1液化技術取得/展開 CMPスラリー添加剤の開発(大学との共同研究)
電子材料	先端半導体	最先端半導体用材料の開発強化 周辺材、後工程材への展開	開発～試作におけるスピーディな材料開発 既存製造設備の改造/強化
	VR、車載 センサー など	ネガレジスト材の新規用途への展開	レジストの厚膜化、薄膜化、低温硬化対応
事業開発室	フェアラブル センサー など	有機無機複合材、圧電材の上市/量産	大学、企業との共同開発推進 学会、展示会、メディア発表などでのニーズ開発
海外販売 の強化	北米 アジア など	海外市場への販売強化	北米拠点の設置 韓国、上海、北米拠点によるチャネル戦略

*BRC : Bio Renewable Carbon

中期経営計画 P & D 2030 事業施策例① 水溶性ポリマーのシェア拡大

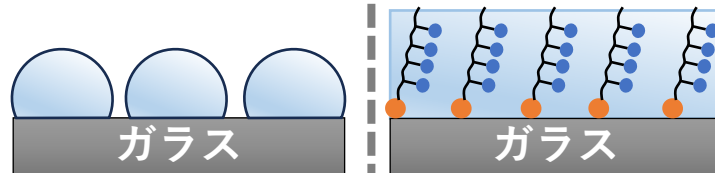
親水性コート剤LAMBICの機能と用途を拡大し シェアを拡大。

また、水溶性ポリマーに関して、生体適合材やCMP材などへの用途展開を目指します。



水溶性ポリマー：LAMBIC

2013年
大阪工研協会
技術賞受賞



水滴発生により曇る

水滴発生を防止



未処理



LAMBIC処理

特徴

- ・超親水性コートによる曇り止め機能の付与
- ・セルフクリーニング特性



機能向上 & 用途拡大により シェアを拡大

- ・フィルム, プラスチック用など使用用途を拡大
- ・耐久性性能の向上（耐水、耐摩耗）

2025年 1月31日

「万能型、超親水性コーティング剤の開発に関するお知らせ」をプレスリリース

中期経営計画 P & D 2030 事業施策例② 半導体用原料の開発体制強化

中量実験室の建設など、材料開発から工業化までのスピーディな材料開発により、顧客との開発体制を強化し、先端半導体用原料のシェア拡大を目指します。

中期経営計画 P & D 2030の施策

2025年 中量実験室の建設,稼働予定(EUV用途)

- ・ 開発から工業化までのスピーディな材料開発
- ・ サンプル提供⇔評価検証のサイクルを高速化

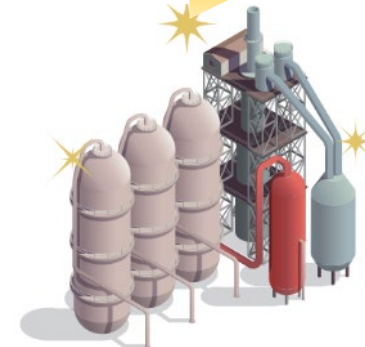
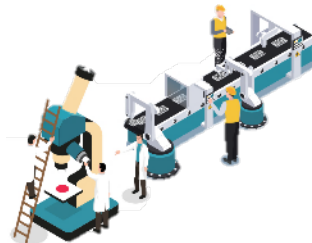
研究開発

試作

工業化

定常的なタスク

- ・ リソース積極投入
- ・ 構造の多様化
- ・ 金属レベル向上



材料提出
フィードバック

材料提出
フィードバック

材料提出
フィードバック

顧客との評価/検証

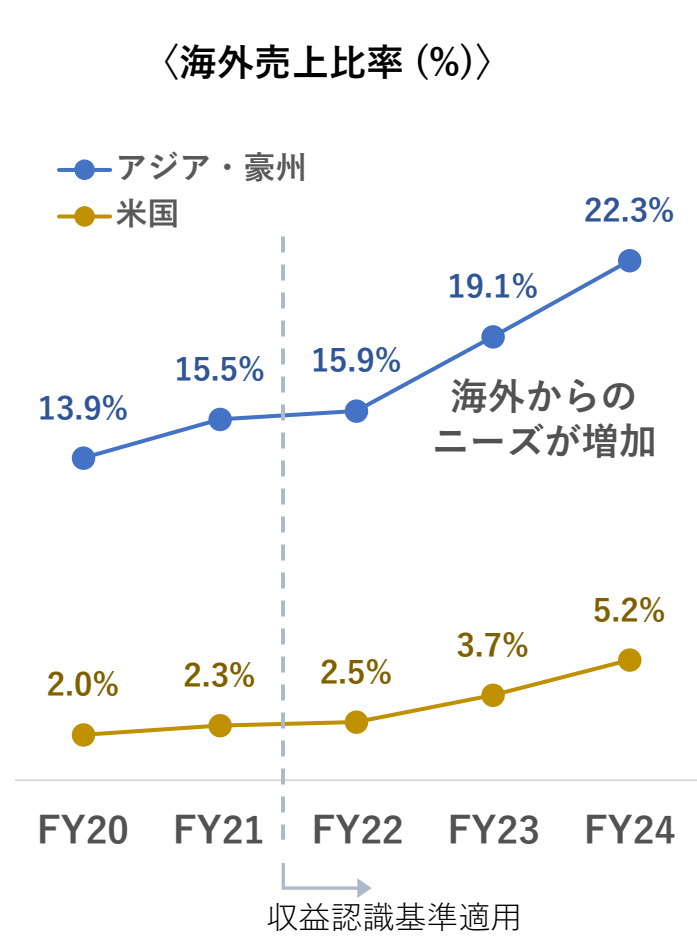
前中期経営計画 NS10の成果

投資実績 (FY19～FY23年累積) **195 億円**



中期経営計画 P & D 2030 事業施策例③ 海外戦略の強化

2024年に韓国拠点を設置。さらに2025年に北米拠点設置を予定。
中国拠点と共にアジア・アメリカへの拡販に注力し、海外販売拡大に努めます。



2014年～
光碩(上海)化工貿易有限公司

2024年～
韓国大阪有機化学工業(株)

北米への拠点設置も検討

海外への販売を強化

商号 : 韓国大阪有機化学工業株式会社
Osaka Organic Chemical Industry Korea Ltd.
所在地 : 大韓民国ソウル特別市
代表者 : 小笠原 元見(当社 事業本部長)
事業内容 : 有機化学薬品関連商材の貿易・販売等
資本金 : 800,000,000 ウォン
出資比率 : 当社 100%

中期経営計画 P & D 2030 キャピタルアロケーション

事業成長と効率化によって利益を最大化し、成長投資や株主還元により資源を適切に分配していきます。

累積営業CF

約 600 億円以上

※経費計上投資等の調整後、税金支払い前

- ・投資による事業成長
- ・海外戦略強化による事業拡大
- ・効率化/自動化による生産性向上

- ・有価証券売却など
- ・株主還元以外の財務CF

累積投資

約 300 億円以上

- ・成長投資 180 億円以上
- ・維持投資 120 億円程度

株主還元

- ・配当性向 40% 目安
- ・機動的な自己株取得

その他

- ・運転資本の増加、法人税手元資金充当など

戦略的投資、成長戦略

- ・EUV用原料製造強化 ・4-HBA製造強化
- ・中量実験設備設置 ・海外拠点設置など

サステナブル投資

- ・廃油再利用ボイラーの建設
- ・新プロセスによるアクリル酸エステル開発(共同研究)

2024年度実績

- ・配当：66 円 ※10年 連続増配
- ・EPS：191 円
- ・配当性向：34.5 %
- ・自己株 143,500株取得
2025年1月24日 大規模な自己株取得を発表

* EPS：1 株当たり当期純利益

中期経営計画 P & D 2030 グリーン社会実現に向けた取り組み

資源効率化や3Rへの技術開発投資を実施し、グリーン社会実現に向け貢献していきます。

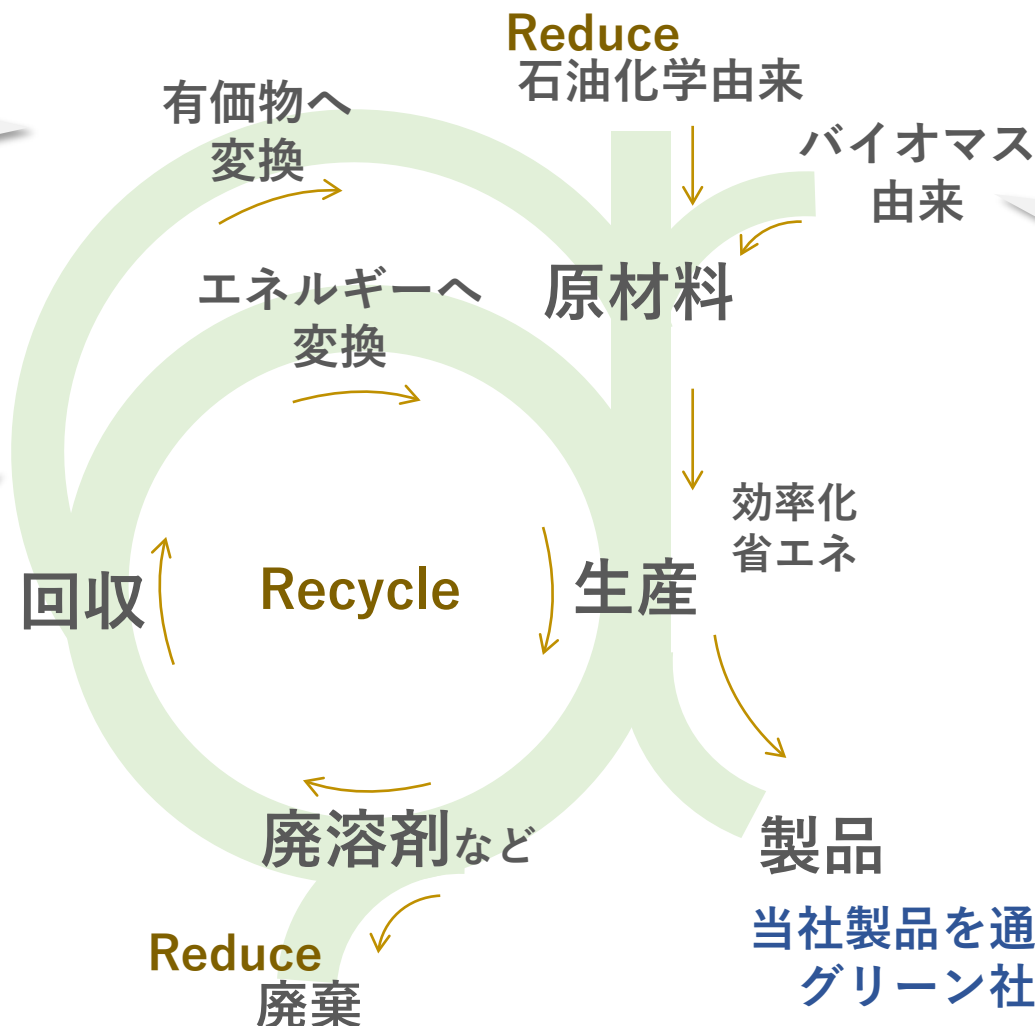
新プロセスによる アクリル酸エステル開発 (開発中)

大学や専門機関との共同研究により
技術開発中。
新プロセスによりCO₂や廃溶剤など
を原材料にアクリル酸などを合成。

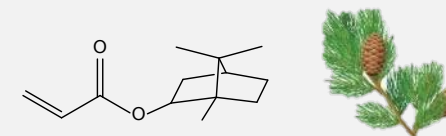
廃溶剤利用ボイラー



社内で発生する廃溶剤等を燃料とする。
CO₂排出量/廃棄物量の削減とともに、
エネルギーコストを大きく削減。



バイオマスアクリレート



バイオマスを原材料とし製造。
顧客製品の環境負荷低減へ貢献
BRCを向上し、さらなる負荷低減
を目指していく。

中期経営計画 P & D 2030 人財育成

5 S活動は、単純な清掃活動ではなく、保全・改善を常に検討する事で
全社活動を通じた組織の発展・個人の成長を促す仕組みとなっております。

⇒会社の強みを支える基盤として、今後も5 S活動(=考える力)を高めていきたい。



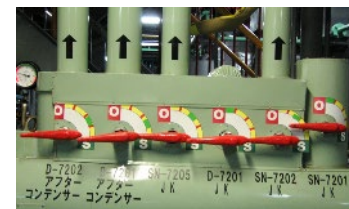
会社の強みを支える基盤へ



高い品質管理
高い技術力



安全で清潔な
作業環境



高効率/高生産性な
仕組みの構築



信頼関係の構築
ルール順守の風土づくり

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

株価 / 株主還元

2024年度は大幅に増配をし、株式配当を10年連続増配。2025年度も増配を予想。

配当性向 40%目安とし、機動的な自己株取得を実施しつつ株主還元向上につなげていきます。

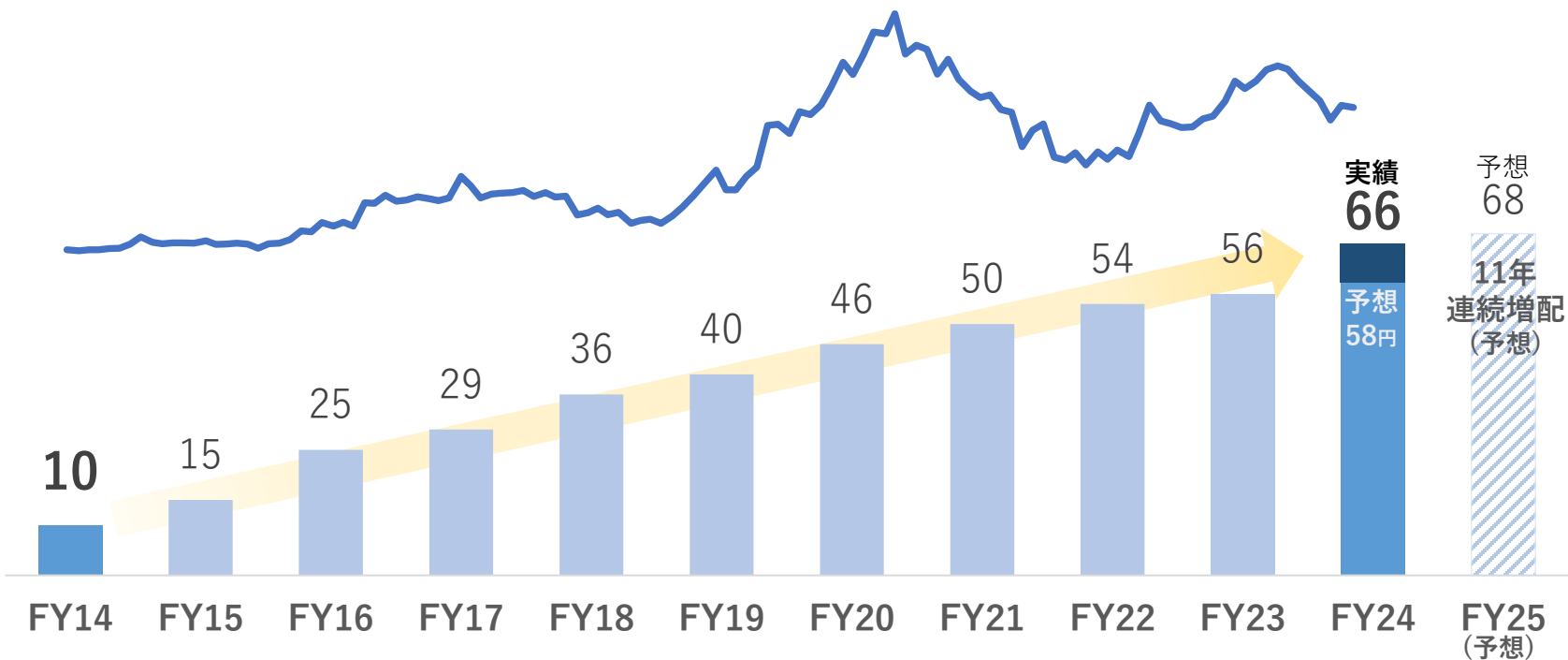
2024年 1月 6日

株価 2,857 円

時価総額 647 億円

株価の推移

配当の推移



株主配当
10年連続増配
当初58円予想から2回の増配修正
11年連続増配(予想)

配当性向 40 %目安
機動的な自己株取得

2025年1月
自己株取得を実施

見えないけれど、あなたのそばに

“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー



大阪有機化学工業株式会社

OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

<https://www.ooc.co.jp>

証券番号 4187(東証プライム)

<将来情報に関する注意事項>

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071（代表）

